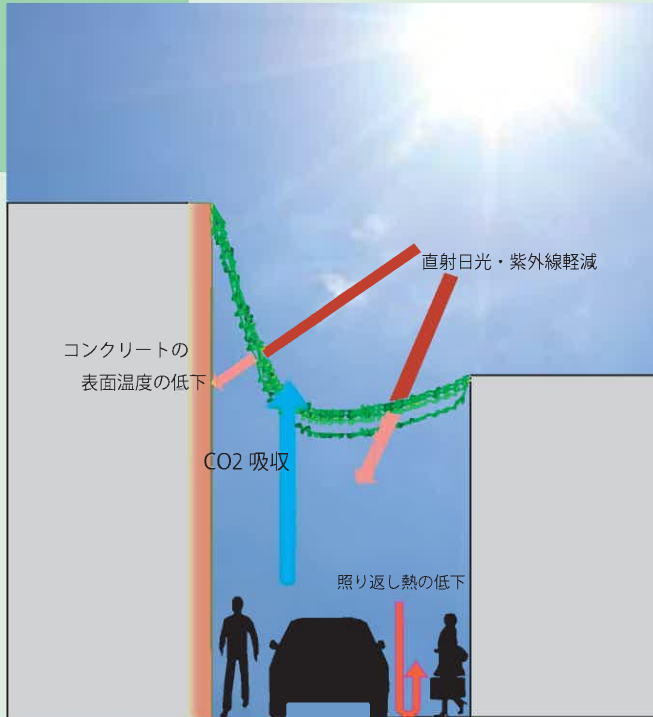


# 緑のレース



ヒートアイランド現象とは温室効果ガスのみにより、生じる現象ではない。太陽からの直射日光が建築物のコンクリートやアスファルトをあたため、そこからの放射熱が大気温を上昇させたり、照り返し熱が人に熱さを感じさせる要因でもある。

そこで今回、大阪の都心部分でヒートアイランドに配慮したまちづくりを行うにあたり、大阪という環境を活かすことのできる都市デザインとして、『緑のレース』を提案する。緑のレースとは建築物の最上部と最上部を蔦植物でつなぎ、街路に植物でレースをかけるように配置する。一軒一軒の建物の高さが異なるので、様々な長さや傾きのレースが街路にかけられ街路を歩き来する人に楽しさを感じさせることができ、ついつい上を向いて歩きたくなる。

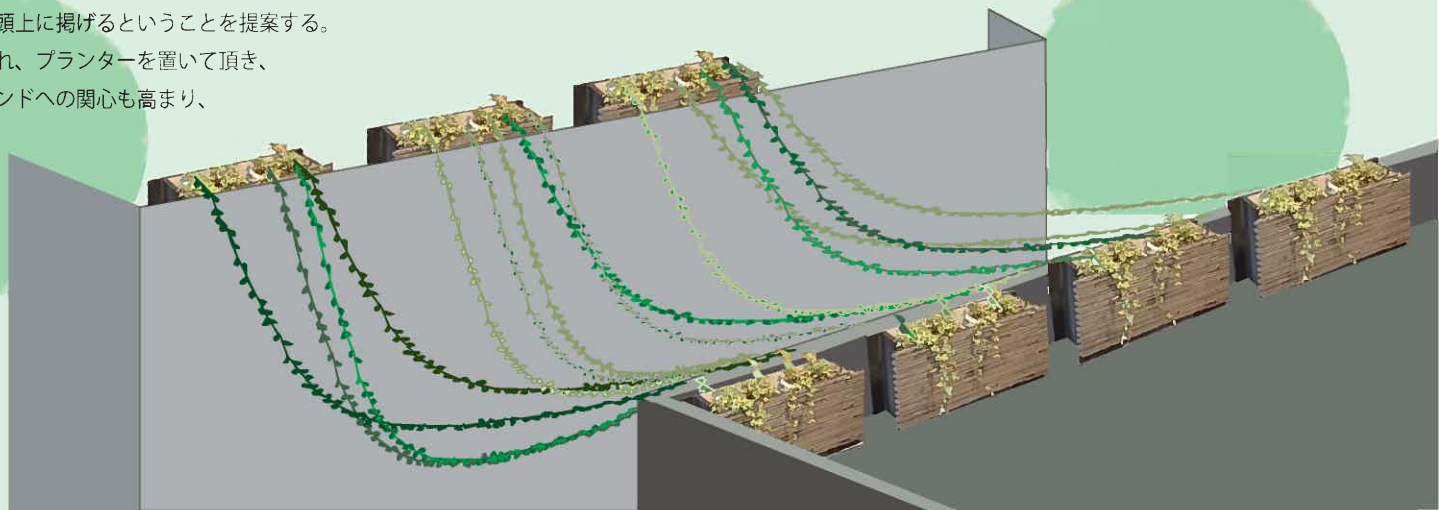


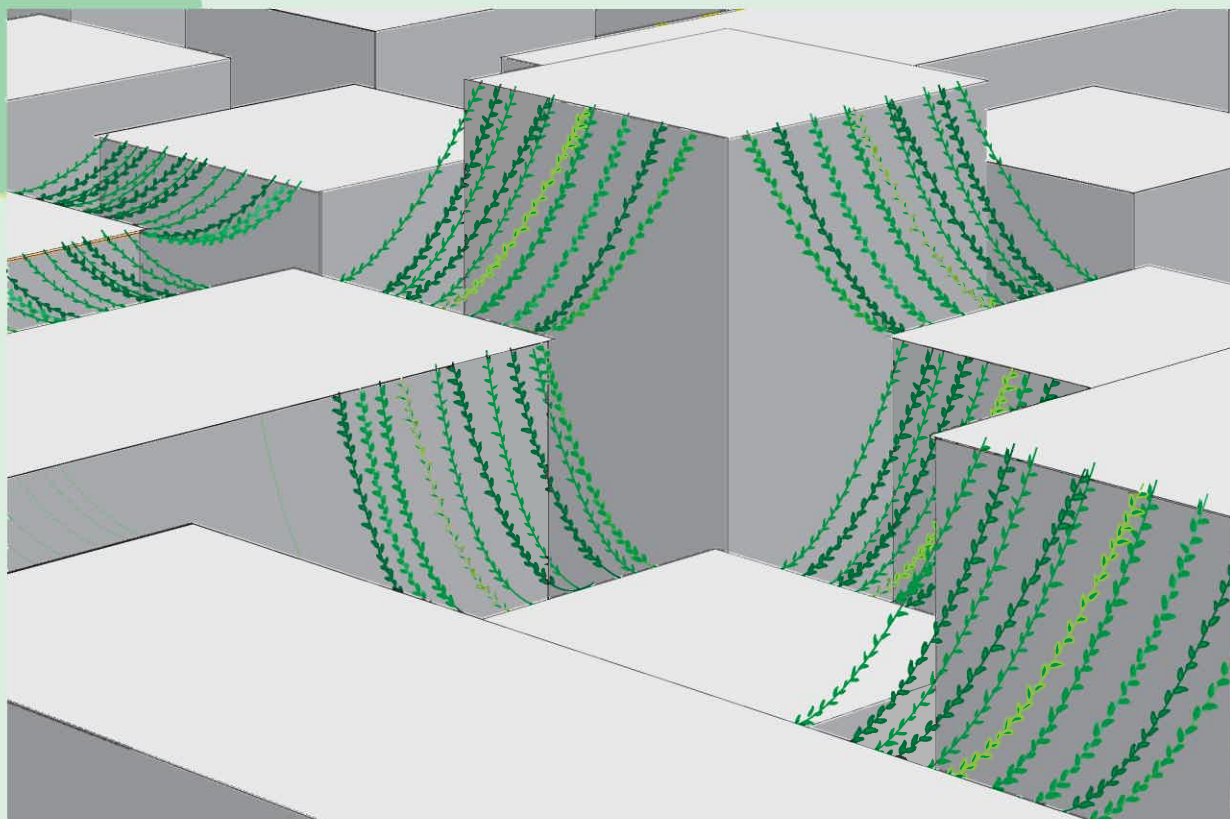
御堂筋などの大通りには街路樹が設けられ、美しい街路空間を創出しているのに加え、ヒートアイランド対策もされているものだと考えられる。

そこから一歩中に入ればほとんどが細い街路であり、大阪市を中心部の大半が細い街路により形成されている街区であることに気付いた。

しかし、細いために街路樹を設けるスペースもなく、また植物もあまりないため寂しい印象を受けてしまいがちであるが、またこのような細い街路が魅力的な空間でもある。このような空間をもっと活かし、またヒートアイランド対策として活用できれば大きな効果を得ることもできると考えた。そこで蔦の植物を頭上に掲げるということを提案する。

都心部の建築物の特徴として、屋根形状が陸屋根が多いことも挙げられ、プランターを置いて頂き、蔦のレースをかけてもらう。これなら住民一人ひとりのヒートアイランドへの関心も高まり、企業や住民、行政やボランティアなどのパートナーシップにより持続的に管理、保持されうるものだと考えた。





御堂筋などの大通りには街路樹が設けられ、美しい街路空間を創出しているのに加え、ヒートアイランド対策もされているものだと考えられる。

そこから一歩中に入ればほとんどが細い街路であり、大阪市を中心部の大半が細い街路により形成されている街区であることに気付いた。

しかし、細いがために街路樹を設けるスペースもなく、また植物もあまりないため寂しい印象を受けてしまいがちであるが、またこのような細い街路が魅力的な空間でもある。このような空間をもっと活かし、またヒートアイランド対策として活用できれば大きな効果を得ることもできると考えた。そこで蔦の植物を頭上に掲げるということを提案する。

向かい合った建物と建物の屋上部分をつなぐことでレースはできるが、建物の高さは様々である。平行なレースもあれば、大きく傾いたレースもあり、同じような細街路でも様々なレースの表情があり、歩いている人にも楽しさを与えることができる。またマラソンにおいても景観に少しアクセントが加わり、緑のレースを含めた街並みを感じながら歩くことができる。

都心部の建築物の特徴として、構造体は鉄筋コンクリート造、屋根形状においては陸屋根が多いことも挙げられ、プランターを置いて頂き、蔦のレースをかけてもらう。向かいの建物と蔦を共有することで、近所付き合いや地区での連携が生まれるとともに、住民一人ひとりのヒートアイランドへの関心も高まり、企業や住民、行政やボランティアなどのパートナーシップにより持続的に管理、保持されるものだと考えた。

